

### ◆◆◆ 2007年の日本各地の二酸化炭素濃度の過去最大を記録

気象庁は、大気環境観測所（岩手県大船渡市綾里）、南鳥島気象観測所（東京都小笠原村）、および与那国島測候所（沖縄県八重山郡与那国町）の3地点で、最も主要な温室効果ガスである二酸化炭素の大気中の濃度を連続的に観測しています。各地点での2007年の年平均濃度は、3地点でそれぞれ386.6ppm、384.6ppm、386.3ppm（ppm：百万分率（体積比））で、これまでの最高を記録しています。各地点とも概ね、年約2ppmの割合で増加を続けており、国内で最初に長期連続観測を開始した綾里においては、観測開始時（1987年）に比べて、35.5ppm濃度が増加しています。また、北半球において年間で最も二酸化炭素濃度の高くなるのは春季ですが、今年4月の観測値は、それぞれ394.4ppm、389.8ppm、392.2ppmと、いずれの観測点でも観測開始以来の最高値を記録しました。

なお、2006年の世界の平均濃度は、381.2ppmで、前年に比べて2.0ppm増加していました。現在のこの濃度は、産業革命（18世紀後半）前の平均的な値とされる280ppmと比べて36%増となっています。

（気象庁のホームページより）